

## 令和2年度第1回練馬区立美術館運営協議会 要録

日時：令和2年11月24日（金）午後2時

場所：ココネリホール（東側）

出席委員 高橋幸次会長、島田紘一呂副会長  
伊豆井秀一委員、佐藤康宏委員、島田紀夫委員、内藤正人委員、  
馬淵明子委員、小川けいこ委員、高口ようこ委員、富田けんじ委員、  
きみがき圭子委員、須藤麻世委員、齋藤宜子委員、畑智江子委員、  
吉田巳蔵委員、江川誠志委員、豊田克史委員  
区職員 小金井地域文化部長、稲永文化・生涯学習課長

課長：本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。  
ただいまから、令和2年度第1回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。  
新型コロナウイルス感染症が拡大してきている状況でもあります。今回の会議は、接触機会の低減のため、内容を精査したうえで、1時間以内を目途に会議を終了したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。  
私は、文化・生涯学習課長の稲永陽子と申します。今年度、委員の改選を行い、本日が練馬区立美術館運営協議会第18期の初開催となるため、会長・副会長の選出まで、私が進行を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。まず、開会に先立ち、今期委員の委嘱をさせていただきます。資料1ページをご覧ください。委員名簿を添付してございます。大変恐縮ではございますが、委嘱状の机上配布をもちまして委嘱に代えさせていただきます。なお、任期は2年となりますのでよろしくお願い申し上げます。  
本来ですと、新規委員からご挨拶をいただくところではございますが、今回は、お名前のご紹介のみとさせていただきます。

### < 新任委員紹介 >

美術館の運営にあたる、文化振興協会の美術館職員に同席をお願いしてございます。こちらにも紹介のみとさせていただきます。  
まず、秋元雄史美術館長です。

館長：館長の秋元です。私から、異動のあった職員のみご紹介いたします。

### < 副館長紹介 >

課長：それでは議題に入る前に、委員の出席状況についてご報告します。  
本日は、青木委員から欠席の連絡をいただいております。今期委員は18名、うち1名の欠席でございます。  
美術館運営協議会条例第7条第2項の規定により、出席が過半数を超えておりますので本日の協議会は成立しております。  
なお、傍聴希望者はありません。以上、ご報告とさせていただきます。

課 長：では、議題に入らせていただきます。次第の1、会長、副会長の選出ですが、資料の3ページを参照ください。美術館運営協議会条例の第6条第2項に、会長および副会長は、委員の互選によると規定されております。選出について、ご意見がございましたらどうぞお願いいたします。

<高橋幸次会長・島田紘一呂副会長互選により選出>

それでは、会長、副会長から就任のごあいさつをお願いしたいと思います。

<会長・副会長あいさつ>

それではここからは会長に議事進行をお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

会 長：では、これより私の方で進行させていただきたいと思います。はじめに、本日の議事の進行についてお諮りいたします。令和元年度事業報告から、順次説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思いますがいかがでしょうか。

<異議なしの声>

会 長：それでは、「令和元年度事業報告」について、説明をお願いします。すでに資料をご覧いただいていると思いますので、ポイントを絞ったご説明をお願いします。

館 長：<「令和元年度事業報告」について説明>

会 長：「令和元年度事業報告」について、質問などがありましたらお願いします。

委 員：24ページの「令和元年度の収蔵品データベースへのアクセス件数」についてですが、平均の数値が違うのではないのでしょうか。

課 長：記載内容が間違っておりました。修正いたします。

委 員：よろしくお願いいたします。

会 長：他はありませんでしょうか。

委 員：20ページの美術作品の収蔵状況についてですが、購入の予算は取っていただけないものなのではないのでしょうか。また、基金みたいなもので少しずつ購入していくということが可能なのでしょうか。基金と言っても様々な形のものがあります。館によっては大きな企業が基金を作ってくれることもあります。地方自治体が基金を作り、例えば記念

の年にはいくら使っても良いなどとしている場合もあります。いろいろなやり方があり、みなさん苦労して購入していらっしゃるようです。

近年の購入数が0というのは、あまりにも寂しいと思うのですが、その辺は区としてどのように考えているのでしょうか。よろしくお願いいたします。

課長：購入の可能性と基金の活用ということですが、区では文化芸術に関する基金を持っております。その中から絵画等の作品の購入を検討することとなりますが、現在持っている収蔵品の活用について鑑みながら、検討してまいります。

部長：補足させていただきます。まず、美術館は、開館から美術品購入のための基金を設置しております。当時は1億円を積み立て、その利息等で購入をしていました。現在は4億円に積み増しをして、購入の際に利用しています。平成26年度に牧野邦夫さんの作品の寄贈に合わせて、同氏の作品の購入もいたしました。今後も作品を購入する場合は、この基金を活用していくこととなります。現在、基金は区民の方からの寄付を受け入れられるものとして位置付けております。

委員：ありがとうございました。美術館側はどのようにお考えでしょうか。

館長：主体的に美術品を収集するのは、美術館の重要なテーマであります。美術館の再整備基本構想を考える中で、自前の予算で購入できるかどうかも含めて検討しております。また、自前の予算で購入をしたいというのが現場の考えです。

委員：区議会議員をしております。私が答弁する立場ではありませんが、美術館開館当時の区長の方針は、練馬区のゆかりの作家、もしくは日本の近現代美術に限られており、その頃に大量に購入しておりました。現在は収蔵庫も厳しいと聞いている中で、数だけ増やせばいいということでもありませんので、建て替え等節目の際に、著名な作家の作品や大作を購入してほしいという要望をずっとしています。その際、大作の購入に4億の基金が十分かどうかというのはありますが、そのような考えはっておりますので、私からもまた要望させていただきたいと思っております。

また、開館当初は、練馬区のゆかりの作家、もしくは日本の近現代美術に限られておりましたが、長期間要望をし続けて民間から館長をお迎えし、学芸員も文化振興協会の職員となり、美術館も変わってきています。展覧会の内容も変わり、練馬区立美術館は発展していると思います。今年は新型コロナウイルス感染症の影響がありますが、引き続き秋元館長を中心に、区民の方が観たいと思う企画展をよろしくお願いいたします。

課題としては、相変わらず、区立小中学校の美術館活用が少ないと思われることです。23区全部が美術館を持っているわけではないので、そういう意味では、練馬区は宝を持っているということになります。美術館としてどのようなアプローチをしているのか、また、学校側で美術館の活用をもっとしていただけないのかと思っておりますが、いかがでしょうか。

館 長：現在教育普及については、担当学芸員は1名で対応しております。事業数をご覧いただきたいのですが、1名で対応するには大変多いものであります。1つ1つにマンパワーを要する事業であるため、美術館としてはこれ以上増やしていくのは難しいところです。現場としては、最大限の努力をしているという状況です。

部 長：学校関係の事業は、徐々にではありますが、増えております。当初は1校だけでしたが、学芸員の努力や教員への働きかけにより、やっとここまで増えたと思っているところです。まだ途上ですので、引き続き、現状の課題を含めて取り組んでいく必要があると認識しています。

委 員：引き続きよろしくお願いいいたします。美術館のマンパワーが限られているということは、理解をしております。子供たちが小学校に通う間に1回くらい、学校行事で来館する機会があってもよいと思うので、教育委員会へ厳しく伝えていただきたいと思えます。

また、西側の地区では美術館の存在自体を知らない子どもたちも多いようです。所管課が異なりますが、『「ねりま」で育って良かったプロジェクト』を立ち上げてもらっています。ふるさと文化館は知っていても美術館を知らないといった子どもたちに、展覧会を観て学んでもらおうというようなプロジェクトを立ち上げてもらっていますので、活用していただきたいと思えます。

課 長：教育委員会と連携し、いろいろな工夫をしていきたいと思えます。

『「ねりま」で育って良かったプロジェクト』につきましては、協働推進課で行っている制度を活用した事業でございます。こちらの事業を活用し、協働推進課とも連携しながら、美術館をはじめ、区内のさまざまな文化芸術施設を知っていただくよう努力していきたいと考えております。

委 員：学校としては、全中学校が集まる研修会に学芸員に来ていただき、展覧会やいろいろなプログラムについて教えていただいております。

また、中学校によって地理的な条件が違いますので、交通費の予算化について、各学校で検討してもらっているところです。

委 員：子どものために使う予算なのに、交通費のことで来館できないというのは非常にもったいないことですし、子どもの頃から親しむことは非常に大事なことです。交通費程度であれば子どものために予算化するべきだと思います。私からも議会の立場で申し上げたいと思えますが、美術館からも区に要望していただきたいと思えます。

会 長：学芸員も大変だと思いますが、頑張ってください。

他にありませんでしょうか。

委 員：昨年度展覧会を拝見させていただいて、特にエドワード・ゴッリー展が記憶に残りました。観覧者数も目標値の200%を超えていますが、この展覧会の観覧

者が特に多かった理由を伺いたいと思います。

学芸員：ゴーリーは絵本作家・イラストレーターであり、絵画の巨匠ということではありませんが、ファンが多いことは前々から承知しており、ある程度の来館者は見込めると予想しておりました。しかし、予定数の200%を超え、思っていた以上に反響をいただいた結果となりました。

当館で開催した展覧会は、4年かけて企画され、日本で初めてアメリカにあるゴーリー財団が持っている原画等をまとめて展示するものでした。東京では八王子の美術館がその展覧会を開催しましたが、23区では練馬のみということで、他の会場を巡回している間に前宣伝ができたということや、広い意味でのアートのファン層が一定数いらしたということが、観覧者増に繋がったと思います。

委員：ありがとうございました。私は子どもがいるので、絵本というのに惹かれて観に行きました。ちょっと子ども向けではありませんでしたが、とても楽しかったのを覚えています。

子どもが美術館に親しむためのワークショップをたくさん開催していただいておりますが、申込数の増減や手ごたえ等を教えていただけたらと思います。

学芸員：昨年度の教育普及事業の開催につきましては例年どおりですが、先ほどのゴーリー展などは、今まで美術館に来館したことがなかった方が多く来館したので、関連イベントにつきましても初めて参加する方が多くなり、新鮮な形でできたと思います。

また、あまり開催しないイベントですが、遊べる浮世絵展の際に、自由に参加できる、浮世絵でおもちゃを作るワークショップを開催しました。コロナ禍で現在は厳しい状況ですが、そういった気軽に参加できるワークショップも今後挑戦していきたいと思っています。

委員：ありがとうございます。他の美術館でも自由に参加できるワークショップを開催しているので、練馬でも増やしていただきたいです。子どもは、申し込みを大人に頼まないと参加できないので、親や教育の環境に関わらず子どもが美術館に行けるようなワークショップを増やしてほしいと思います。

会長：欠席者からの質問はありませんか。

課長：お預かりしている質問はございません。

会長：「令和元年度事業報告」について、ほかに質問がなければ、承認とさせていただきます

次に、次第の3「令和2年度事業計画（中間報告）」について、説明をお願いします。こちらも、ポイントを絞ったご説明をお願いします。

館長：＜「令和2年度事業計画」（中間報告）について説明... 館長、担当学芸員＞

会 長：説明ありがとうございました。

「令和2年度事業計画」(中間報告)について、質問等がありましたらお願いいたします。

委 員：先ほど館長からも説明がありました、「ねりびちゃんねる」配信についてお伺いします。初めての試みでなかなかうまくいかなかったということもあると思いますが、美術館に行けない方への良いアプローチだったと思います。視聴者数の伸びが鈍かったという印象がありますが、来館者をより増やすために、こういった方法を利用して興味を持ってもらえるような取り組みをするのかなど、今後の「ねりびちゃんねる」の取り組みについて教えていただければと思います。

館 長：こちらから配信しても、見ていただく方がいなければそれまでなので、事業として継続していくということが大事であると思っています。

大きな流れとしては、ネット配信みたいなものを増やしていき、実際には来館できないけれども美術館の活動に興味を持ってもらったり、美術館に親しみを覚えてもらえるようなものを作っていくことが大事であると考えています。形ができるまでは、現場で試行錯誤をしているので、長い目で見ていただき、応援していただけたらと思います。

委 員：ぜひ練馬区立美術館の魅力発信に繋がるような動画配信等を期待しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：コロナ禍で大変と思います。今年度の企画展で「電線絵画」が大変面白いと思いましたが、これは練馬区立美術館独自のものでしょうか。また、他館から作品を借りなければならぬと思いますが、この時期に可能なのかをお聞きしたいです。

学芸員：「電線絵画」は私が考え、練馬区立美術館だけでやる展覧会です。

もう一つの質問についてですが、今のところ、どこの美術館とも出品交渉はうまくいっており、お貸しいただけるという回答をいただいています。ただ、聞くところによりますと、各地で、東京に作品を借りに行けなくて展覧会が中止になっているという状況があるとのこと。非常に不安には思っておりますが、状況に合わせて対応していくしかないと考えております。

委 員：ぜひ成功していただきたいと思います。

会 長：その他にありますか。

委 員：コロナ禍での6～7月頃のYouTubeの活動については、学芸員や作家の人となり伝わってきて、親しみが湧きました。観覧者数は少なかったですが、美術館の間口が確実に広がったと感じました。

再構築展は、チャレンジングな展示で、オープンスタジオ等もあり、次の段階で行われるアーティストインレジデンスに繋がっていく可能性を感じました。美術界隈では好評な展示だったと思います。

コロナ禍をすり抜けていく力を感じました。大変だと思いますが、これからの活動に期待しています。

もう一つ、言いにくいことですが、芸術家支援についてです。練馬区では全然できていないのですが、板橋区・豊島区・小金井市等はアーティストキャンペーン等を行っていました。練馬区はそのようなものがなく、区の本質が分かったような感じがしました。

会 長：他にありますか。

「ねりびちゃんねる」は、ぜひ周りの皆さんにご紹介ください。

「令和2年度事業計画（中間報告）」について、ほかに質問がなければ、承認とさせていただきます。

次に、次第の4「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

課 長：美術館の再整備について簡単にご報告させてください。

美術館の再整備につきましては、昨年11月に提言をいただいたところです。今年度はその提言を受けまして、再整備に向けて進む予定でございました。ところがこのコロナ禍で厳しい状況となり、今年度は「練馬区美術館再整備基本構想」の策定を延期するという事にいたしました。現在は、いただいたコンセプトを具体化するために、委員の皆様の意見を伺ったり、専門家の協力を得たりしながら進めているところです。

会 長：ありがとうございました。コロナ禍で大変ですが、頑張ってくださいたいですし、皆様のご支援の方もよろしく願いいたします。

それでは、以上で令和2年度第1回美術館運営協議会を終了いたします。

次回は、来年3月24日（水）午後の開催を予定しております。本日はご協力ありがとうございました。